

令和7年度 次世代創出PBL推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	38
学校名	富山県立小矢部園芸高等学校

学校の現状と課題	本校は園芸科単独校であり、生徒は課題研究や農業実習を通して、農業、造園について広く学習しているが、将来の進路に対する意識が漠然としており、具体的な将来像を描いたり、目標を設定したりすることに困難を感じている。その結果、農業や地場産業に係る企業への就職を希望する生徒は、例年少ない状況となっている。	
テーマ(特色)	年間を通じた計画的な農産物の生産や地域に向けた販売実習の実施による地域活性化などを通じた生徒の意欲向上	
設定した「テーマ」の達成状況	本校農場で栽培している農作物を使い、小矢部市役所や市内等スーパーの地域と連携した実習や周辺中学校等への訪問販売を実施したことで生徒の農業に対する知識や意欲の向上に繋がった。 実践的実習においては物品が充実することによって、生徒が活動しやすい環境となり、意欲的に取り組むことができた。 また、今年度も各種活動で学校外の機関とも協働的に関わった。農業教育を通じ地域の産業や農業に関する知識・技術の向上が見られ、社会を支える人材育成や、農業が果たしている役割、働くことの社会的意義と役割について主体的に問題に向き合う態度を養うことができた。	
実施内容 (具体的に記入する)	①小矢部市周辺の野菜の年間の需要数をもとに、各種野菜や草花などの栽培を行った。また、ICT機器の実践学習を目的にイネ等の栽培も行った。 ②本校で収穫した農作物を地域と連携し、スーパーや周辺中学校での販売実習を4回程度行った。 ③地域と連携し、年3回程度本校で栽培した草花を用いて植栽活動を行い実践型教育の場とした。 ④農産物の栽培や身近な課題について探究的な活動を行った。 ⑤先進農家や地域に根ざした企業の講演会を実施した。	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	需要と供給の観点から栽培し消費者へ届けるまで実習することで、職業としての農業や地場産業に関する知識ややりがいを知ることができ、興味関心を抱ききっかけを作った。また、イネの栽培では、近年導入されたスマート農機の講習会を計3回実施することができた。ドローンを活用した肥料の散布やコンバインの操縦等で継続的に活用することで、馴染みがなく疎遠に感じがちな農業機械へのイメージを払拭した。 地域のショッピングモールとの協働活動として植栽を行うことで、生徒は自身の学習の成果を発揮する場として主体的に活動することができた。学校と企業、民間との協働活動は好評で、今年度も、本校で栽培した米を外部企業と連携しパックご飯に加工し、販売活動を行った。造園の学習では、造園技能検定の受検、庭園の管理実習、外部講師による雪吊り講習会と実践により知識や技術の向上に繋がった。この他にも、個人庭園での樹木管理実習など対外的に活動を見てもらう場を作ることで目標をもって学習活動に取り組むことができた。また、活動の成果を自覚し、継続する農業学習に関する意欲向上に繋がった。 先進農家や地場産業に関する企業の講演会では農業が果たしている役割、働くことの社会的意義と役割について学ぶことができ、地域の課題発見につながる知見を得た。	
対象者(学年・人数など)	1～3年次 37名	
実施実績	4月	
	5月	スマート農業研修会
	6月	花のプランター植栽、スマート農業研修会
	7月	造園技能検定の練習と受検、イオンモールとなみ花と緑の園プロジェクト
	8月	
	9月	スマート農業研修会
	10月	個人庭園の管理実習、小矢部市イベント会場での販売実習
	11月	小矢部市内中学校での販売実習、個人庭園の管理実習、富山県立中央農業高等学校との合同特別実習、小矢部市農業祭での展示花壇づくりと農産物販売、イオンモールとなみ花と緑の園プロジェクト
	12月	小矢部市役所、小矢部市内スーパーアルピスでの販売実習、イオンモールとなみ花と緑の園プロジェクト、雪吊り講習会と雪吊りの実践(実習)
	1月	講演会(松浦園芸、ミヤモリ)
	2月	
	3月	